

令和4年度 全国学力・学習状況調査結果と考察

令和4年12月2日
東御市教育委員会

令和4年4月19日に実施されました全国学力学習調査の東御市小中学校の結果の概要について報告いたします。

☆ 調査の目的

- ・義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況の把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ・学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- ・そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

I 児童生徒に対する調査

1 教科に関する調査

教科に関する調査（国語、算数・数学、理科）次の①，②を一体的に出題

- ①身に付けておかなければ、後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ②知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な問題解決のための構想を立て、実践し、評価・改善する力などに関わる内容

2 調査分類・区分

小学校	国語	算数	理科
分類	区分	区分	
学習指導要領の内容等	☆言葉の特徴や使い方に関する事項 ☆我が国の言語文化に関する事項 ☆話すこと・聞くこと ☆書くこと ☆読むこと ☆言葉の特徴や使い方に関する事項	☆数と計算 ☆図形 ☆測定 ☆変化と関係 ☆データの活用	☆「エネルギー」を柱とする領域 ☆「粒子」を柱とする領域 ☆「生命」を柱とする領域 ☆「地球」を柱とする領域
評価の観点	☆知識・技能 ☆思考・判断・表現	☆知識・技能 ☆思考・判断・表現	☆知識・技能 ☆思考・判断・表現
問題形式	☆選択式 ☆短答式 ☆記述式	☆選択式 ☆短答式 ☆記述式	☆選択式 ☆短答式 ☆記述式

中学校	国語	数学	理科
分類	区分	区分	区分
学習指導要領の領域等	☆言葉の特徴や使い方に関する事項 ☆情報の扱い方に関する事項 ☆我が国の言語文化に関する事項 ☆話すこと・聞くこと ☆書くこと ☆読むこと	☆数と式 ☆図形 ☆関数 ☆データの活用	☆「エネルギー」を柱とする領域 ☆「粒子」を柱とする領域 ☆「生命」を柱とする領域 ☆「地球」を柱とする領域
評価の観点	☆知識・技能 ☆思考・判断・表現	☆知識・技能 ☆思考・判断・表現	☆知識・技能 ☆思考・判断・表現
問題形式	☆選択式 ☆短答式 ☆記述式	☆選択式 ☆短答式 ☆記述式	☆選択式 ☆短答式 ☆記述式

II 児童生徒を対象にした質問紙調査

1 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問紙調査

主な調査項目は

- ・挑戦心、達成感、規範意識、自己有用感等
- ・地域や社会に関わる活動の状況等
- ・ICTを活用した学習状況
- ・主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況
- ・学習に対する興味・関心や授業の理解度等

結果

1 概要

○東御市における科目別平均正答率について

- ・小学校の結果は、国語、算数、理科ともに全国平均とほぼ同等であった。
- ・中学校の結果は、国語、理科は全国平均とほぼ同等であった。数学は全国平均よりやや低い結果であった。

2 小学校 教科別考察

(1) 小学校国語

学習指導要領の内容別にみると「知識及び技能」や（話すこと・聞くこと）（書くこと）

(読むこと)などの「思考力、判断力、表現力等」のどの内容でも大きな落ち込み等がなくほぼ平均と同等であったが、読みに関する問題で登場人物の関係や気持ちを叙述をもとに考える内容では、正答率がやや低い傾向があった。

日頃の授業の読み取りで、文章と文章の内容の関係性を意識させながら、そこに登場する人物等の発言の意味や心情にまで踏み込んで理解するような学習をさせていきたい。また、話し手の考えを理解しつつ、自分なりの考えを持つように、話し合い活動の充実を図る学習活動を重視していきたい。

(2) 小学校 算数

正答率は全国平均とほぼ同じであった。学習指導要領の領域別では (数と計算) (図形) (測定) (変化と関係) (データの活用) の中で、(変化と関係) で正答率が平均値よりやや下がっている。数量関係で伴って変わる数量の間に関係を見つけ未知の数量を導き出すことを具体的な場面を使いながら、理解するようにしていきたい。生活の経験の具体的な事象から数量の関係性や意味を把握する丁寧な学習が重要である。また、プログラミングの要素を取り入れた作図の問題で正答率がやや下がっている。図形の性質をよく理解するとともに、プログラミング的な思考を育てる学習も大切にしていきたい。

(3) 小学校 理科

正答率はほぼ全国平均とほぼ同じであった。

その中で学習児童要領の領域別の正答率では、「粒子」を柱とする領域 が平均をやや下回った。水の凍る温度の実験結果をもとに、何がわかるのかを判断していくことを問われていた問題で正答率が平均をやや下回る傾向があった。今後も日頃の授業の実験で予想、見通しを大切に、新たな疑問や次の課題が生まれるような実験、授業を目指していきたい。

3 小学校の児童質問用紙

○概ね満足でき今後も力を入れていきたい項目 ●今後力を入れていきたい項目

- 生活リズムについては食事、睡眠とも規則正しく生活できている子どもが多い。
- 携帯電話、スマホ、PCの使用時間は家の人との約束を守って使用している子どもが多い。使用時間、動画、SNS視聴についても、3時間以上というような長時間使用の子どもは、全国平均に比べて、少ない。ただ、どちらも約束を守れなかったり、長時間使用をしてしまっている子どもがいるので、今後もネット利用に関する学習を継続するとともに家庭と連携して指導に力を入れていく必要がある。
- 「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」という設問では、認めてくれているという回答が全国平均より高く、子どもたちを認め伸ばそうとしている教員の姿勢がわかる。今後も大切にしていきたい。
- 自分のよさの自覚、目標を持って挑戦することなどの質問紙は平均より高めである。中でもむずかしいことでも失敗を恐れずに挑戦するという項目は全国平均より高い。前向きな姿勢は大切に育てていきたい。
- 「学校に行くのが楽しいですか」の質問について当てはまる、どちらかといえばあては

まると回答している子どもは全国平均より高く、昨年度同様高い傾向である。また、「友だちと協力することが楽しい」とする割合も高い。学校生活や学習活動の基礎を支える友だち関係であるので、見守り育てるようにしていきたい。

- 地域の行事に積極的に参加している子どもが多い。全国平均と比較してかなり高く、コロナ禍であるが、感染防止に配慮しながら、地域との関わりを今後も大切にしていきたい。
- 「読書が好きですか」では、全国平均より高い。本に親しむ習慣ができていることがうかがえる。今後も読書活動、図書館利用など推進していきたい。
- 国語、算数が好きであると回答した子どもの数がいずれも全国平均より高い。子どもの意識を大切に授業づくりの表れであると考え。これからも学びに向かう前向きな気持ちを大切にしていきたい。
- 家庭での学習時間が全国平均に比べて少ない。自ら計画をして行う家庭学習の習慣をつけていきたい。家庭学習のやり方について、ていねいな支援をしていく必要がある。
- 授業、学習活動でのコンピュータ、ICT 機器の利用、活用については全国平均より低い。昨年度から研修会や支援員配置も行われ、授業での利用は進んでいるが、今後もさまざまな学習活動で使われるように校内はもとより学校間でも積極的な情報交換をしていきたい。
- 理科が好きであるかという質問について好きであることえた児童の割合が平均を下回った。科学的な発見、思考の面白さを感じさせる授業展開や自然との関わりを大切に授業展開を心がけ、授業改善をめざしたい。

4 中学校の教科別考察

(1) 中学校国語

正答率は全国平均とほぼ同じであった。

学習指導要領の内容、思考・判断力・表現力等に関わる領域（話すこと・聞くこと）（書くこと）（読むこと）については、全てで平均に達した。ただ、知識及び理解の領域（我が国の言語文化に関する事項）で課題があった。書写、行書について理解、また、漢字に課題がみつかった。質問紙による国語が好きであるかの質問に9割以上の生徒がはいと答えている状況から国語の授業が生徒に寄り添った方向で展開していることがうかがえる。今後もこうした前向きな姿勢を大切にしながら、多くの文章や様々な考えに触れ、書く学習も重視しながら、自分の考えを持ち、豊かな楽しいコミュニケーションがとれる学習を展開していきたい。

(2) 中学校数学

全国平均よりやや低い結果であった。

学習指導要領の領域別（数と式）素因数分解、連立二次方程式の問題で正答率が平均より低かった。いずれも基本的な問題であるので、基本内容をしっかり押さえ、ミスがなくし、確実にできるような普通のドリルが大切であると考え。また、データの活用領域で実験データから傾向を読み取り、考察し、判断する問題で課題があった。日頃からデータやグラフから読み取り、判断するというような場면을学習に取り入れたい。

今後も、メリハリのある授業展開と基本的な理解を確実にする日々のドリル学習、家庭学習を行い、授業時間でも学習事項の振り返りをしっかりと行い学習内容の定着をより丁寧に行っていく必要がある。

(3) 中学校理科

正答率は全国平均とほぼ同じであった。

エネルギー、粒子、生命、地球の4つの柱とした領域の中では、「粒子を柱とした領域」の正答率がわずかに平均に届かなかった。液体が気体に変化する状態変化に関する知識及び技能を活用する問題において、課題があった。実験の結果が考察の根拠として十分であるかを検討し、必要な実験を行うことができるようにしたい。授業の実験でも、実験結果からわかることを明確にすることや新たな問いを生む展開も工夫していきたい。

5 中学校の生徒質問紙

○概ね満足でき、今後も力を入れていきたい項目 ●今後力を入れていきたい項目

○食事、起床・就寝などについては、ほぼ全国平均で生活のリズムが守れている状況である。

●スマホ、携帯電話でSNS、動画を1日3時間以上視聴していると回答している生徒が全国平均より少ないが、わずかにいる。生活時間のリズムへの影響が心配される。また、携帯電話、スマホの使用のきまりを家で守られているか、の質問でも守られていないと回答している生徒も全国平均と同等で、わずかにいる。スマホの使い方、ネット利用について引き続き、ていねいな指導をしていく必要がある。

○「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」の質問に対し、肯定的な回答が全国平均よりかなり高い。また、「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか」の質問に対しても同じく平均より高い回答がされている。この傾向は昨年度に続いたものであり、教師が子どもたちのよさに目を向け、受容的によさを伸ばそうとしている支援の姿勢がうかがえる。今後も大切にしていきたい。

○学校に行くのは楽しいですかの質問は、全国平均と同等である。学校が楽しい生活の場であることは、これからの大切にしていきたい。

○新聞を読んでいる生徒の割合が全国平均に比べ、高い。NIEの指定の取り組みもあり、新聞が身近なものになっていると思われる。多くの教科で新聞を生かす学習を取り入れていきたい。

●家庭学習の質問で一日の時間数、休日の時間数が平均より少ない傾向である。家庭学習について、内容ややり方を含めた指導を継続していく必要がある。

○読書時間が全国平均と同等であった。小学校では読書が好きである割合が高い傾向であったが、時間が減少していると思われる。本に親しむ機会が増えるように工夫をしていきたい。

○地域行事に関わる生徒が大変多い。伝統的に地域が子どもを大切にする意識があり、ありがたい。今後も地域とのつながりを大切にしたい学校づくりをしていきたい。

●ICT機器の活用がまだ全国平均と比較するとやや少ない。現在、研修会が行われ昨年度に

比べると大きく活用の幅が広がってきているが、さらに様々な教科や活動に利用の可能性を探りながら、学習ツールとして日常的に位置付くようにしていきたい。

- 「国語の勉強が好きですか、国語の授業の内容がよくわかるか」の質問に対して、いずれも平均より高い。学習の基礎となる国語学習に前向きに取り組む傾向は大切にしたい。
- 「数学の勉強が好きですか」の質問に対して好き、どちらかといえば好きと答えている生徒は全国平均より低い。数学の正答率と相関関係があると思われる。今後も数理の楽しさを感じさせる授業づくりを重ねていかなければならない。基礎的な問題を大切に、「できた、わかった」を感じられるような時間を増やし、取組の意欲を大きくするようにしたい。
- 「理科の勉強は好きですか」「理科の授業の内容はよくわかりますか」の設問への回答で当てはまる、どちらかといえば当てはまると答えた生徒は全国平均より高い。理科の正答率にもつながっていると考える。「おもしろい、なるほど」といった科学的な好奇心を大切に理科の授業づくりをこれからもしていきたい。